

NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

第 19 回通常総会議事録

- 第一号議案 議長の選任
- 第二号議案 放送批評懇談会 2022 年度事業報告
- 第三号議案 放送批評懇談会 2022 年度決算報告
- 第四号議案 放送批評懇談会 2023 年度事業計画
- 第五号議案 放送批評懇談会 2023 年度収支予算

放送批評懇談会

2023年3月19日



特定非営利活動法人放送批評懇談会

<第19回通常総会>

■開催日 2023年3月19日

■会場 オンライン開催

■会勢 <正会員>
200名 (入会11名、退会6名)
<維持会員>
137社

■出席者 29名
家田利一 市村元 出田幸彦 奥律哉
音好宏 風間恵美子 川喜田尚
国枝智樹 五井千鶴子 小林毅 桜井聖子
生野徹 鈴木健司 滝野俊一 長井展光
仲宇佐ゆり 中島好登 服部千恵子
松山珠美 平岩潤 平岩基 福島俊彦
藤田真文 古川柳子 堀木卓也 水島宏明
山家誠一 山田健太 渡邊悟

■委任状提出者 89名

■出席予定者と委任状提出者で計118名



第一号議案 議長の選任

定款第27条「総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する」の規定に則り、出席の正会員の中から、「服部千恵子氏」を合議により選出。

第二号議案

放送批評懇談会

2022 年度事業報告



2022年度総務事業報告

1. 会員管理、会議運営、事務局業務を行い、事業部門の活動を支援しました。
2. 事業年度の変更
第18期通常総会で決議された事業年度の変更（4月1日から翌3月31日を1月1日から12月31日に）を実行する運営体制への調整、切り替えを行いました。
3. 放送批評懇談会60周年
60周年事業担当の川喜田尚専務理事、藤田真文常務理事を中心に、60周年事業の検討作業を進めました。
4. 「ザ・ベストテレビ2022」「ザ・ベストラジオ2022」
国内の放送番組コンクールで高い評価を受けた作品を放送するNHK「ザ・ベストテレビ2022」「ザ・ベストラジオ2022」に協力しました。
「ザ・ベストテレビ2022」はNHK・BS1で2022年12月6日（火）から13日（火）に放送され、9日（金）に第59回ギャラクシー賞テレビ部門大賞作品として「1リアル～あの日、原発の傍らにいた人たち～」（福島中央テレビ）が放送されました。
「ザ・ベストラジオ2022」はNHK FMで2022年12月26日（月）27日（火）に放送され、第59回ギャラクシー賞ラジオ部門大賞の「ERのオーケストラ」（CBCラジオ）、同優秀賞の「Lost and Found ～家族と故郷を失った父と娘の10年～」（信越放送）が放送されました。
5. 第20回日韓中テレビ制作者フォーラム
新型コロナウイルスの影響で2020年より延期していた「第20回日韓中テレビ制作者フォーラム」を、2022年12月6日（火）にオンラインで開催しました。クローズドイベントの形で開催し、日韓中からのオンライン参加者は合計127名でした。
主催は全日本テレビ製作者連盟（ATP）、放送批評懇談会、韓



国PD連盟、中国電視芸術家協会でした。

6. 公式ホームページおよびGメンバーサイト（会員サイト）を運営しました。
7. 「GALAC」などの販売を行う放送批評懇談会オンラインショップを運営しました。
8. Gメンバー不正問題
2022年5月に発覚した「オンライン会員Gメンバー」の会員なりすまし等に関する不正問題について、＜「放送批評懇談会Gメンバー不正問題」調査検討プロジェクトチーム＞を立ち上げて調査・検討を行い、不正会員の定義と特定を行って、第16回マイベストTV賞グランプリを検証しました。
9月30日、調査・検討結果をホームページ、プレスリリース、正会員およびGメンバーへのメールで発表しました。正会員には限定で「中間報告書」を開示しました。
今後の不正防止対策としては、「オンライン会員Gメンバー」会員規約を改正し、セキュリティ対策を高めた会員サイト（Gメンバーサイト）を新オープンしました。
「放送批評懇談会Gメンバー不正問題」調査検討プロジェクトチームは、以下のメンバーで構成しました。
川喜田尚（専務理事）、滝野俊一（理事・広報委員長）、小林毅（理事）、山田健太（理事）、中島好登（理事・事務局長）、齋藤茜里（事務局）、木嶋望（弁護士、村下法律特許事務所）
9. 新型コロナウイルス感染拡大に対応し、事務所の換気、消毒を徹底するなどして職員の感染防止に努めました。また、リモート会議システムZoomを活用し、理事会、委員会、打ち合わせなどを行いました。



2022年度出版編集事業報告

1. 2022年度は下記のメンバーで運営しました。

委員長	鈴木健司				
副委員長	国枝智樹	渡邊 悟			
委員	岩根彰子	梅田恵子	鈴木 昭	高堀冬彦	
	戸部田誠	西川博泰	服部洋之	三谷実可	
編集スタッフ	中島好登	福島美子	山本夏生	齋藤茜里	
	桧山珠美				

2. 毎月6日に「GALAC」プリント版（4000部程度）と電子版で発行しました。

- 1) 特集テーマは以下のとおりです。

2022年10月号	テレビのサウンドパワー
2022年11月号	Z世代とシニア世代
2022年12月号	メディアリテラシー再考
2023年1月号	第60回上期ギャラクシー賞
2023年2月号	よみがえれ！深夜
2023年3月号	テレビ70年・これまでの道程
2023年4月号	テレビ70年・これからの展望
2023年5月号	拡張するライブコンテンツ
2023年6月号	放送批評60年

- 2) 2022年度は新型コロナ禍による社会活動の制限がやや緩和され、対面の取材活動はだいぶ可能にはなりましたが、リモートによる取材や会議が主体である状況には変わりありませんでした。当面はリモートと対面を適宜使い分けていくことになると思われます。編集テーマについては、国内外の社会状況とともに、放送界および各情報メディアの動きを注視しながら、「放送（コンテンツ）を多角的に見つめ、健全な批評精神を発揮する」という基本的な編集方針に則った特集企画を揃え、タイムリーな誌面作りを心がけました。

3. KADOKAWA（プリント版）、ブックウォーカー（電子版）



にて販売を行いました。また、放懇オンラインショップ、富士山マガジンサービスでの直販に努めました。

4. インターネット対応について

- 1) ニュースサイト「東洋経済オンライン」「InterBEE マガジン」に記事の提供を行いました。
- 2) 公式ホームページに「月間賞選評」を掲載しました。
- 3) 会員サイト（Gメンバーサイト）に引き続き電子版を提供しました。



2022年度選奨表彰事業報告

1. 2022年度は下記の委員で運営しました。

選奨事業委員長 出田幸彦

<テレビ部門委員会>

委員長 古川柳子

副委員長 桧山珠美

委員 石田研一 永麻理 太田省一 岡室美奈子

影山貴彦 加藤久仁 戸田桂太 並木浩一

藤田真文 松田健次 松山秀明

<ラジオ部門委員会>

委員長 桜井聖子

副委員長 仲宇佐ゆり 山田真嗣

委員 石井育子 井上佳央里 川喜田尚 北郷裕美

下田まり子 真銅健嗣 永須智之 松崎泰弘

三原 治

<CM部門委員会>

委員長 家田利一

副委員長 風間恵美子

委員 伊藤健志 今宿裕昭 片桐 理 川野康之 木下一郎

生野 徹 中島和哉 野上信子 平岩モトイ

村田玲子 山下治城

<報道活動部門委員会>

委員長 茅原良平

副委員長 長井展光

委員 市川哲夫 市村 元 小泉世津子 齊藤潤一 塚本 茂

西島泰三 樋口喜昭 平岩 潤

選奨事業委員会担当事務局 福島美子 齋藤茜里

2. 第60回ギャラクシー賞各部門の選考のため、以下の作業を行いました。

<テレビ部門委員会>

・2022年4月から2023年3月まで、毎月月評会を開き月間賞4本



を選びました。選考結果を「GALAC」誌上に月間賞選評および番組短評一覧として発表しました。毎月20日を情報解禁日とし、月間賞の選考結果をプレスリリースしました。

- ・2022年9月10日～30日、10月8日～20日に、上期自薦作品197本を視聴。10月29日、月間賞（24本）と自薦作品の中から上期入賞作品7本を選出しました。

<ラジオ部門委員会>

- ・2022年4月から2023年3月まで、毎月合評会を開催してラジオについての合評を行いました。
- ・2022年10月、上期50本の自薦作品を聴取し、10月25、28日に8本の入賞候補作品を選出しました。

<CM部門委員会>

- ・2022年4月から2023年3月まで、毎月定例会を開催してCMについての合評を行いました。
- ・2022年10月26日、上期80本（テレビ）、47本（ラジオ）、35本（ウェブ）の自薦作品を視聴し、13本の入賞候補作品を選出しました。

<報道活動部門委員会>

- ・2022年11月1日、上期7本の自薦作品を視聴・聴取し、3本の入賞候補作品を選出しました。
- ・2023年1月24日に委員会をオンラインで開催して、報道活動についての情報交換を行いました。
- ・「GALAC」連載ページを委員が分担し、全国各地における報道活動の紹介、各局報道活動への期待、特定のテーマに関する報道活動についての論考などを執筆しました。



2022年度企画開催事業報告

1. 2022年度は、下記の委員で運営しました。

委員長 水島宏明

副委員長 奥 律哉

委員 氏家夏彦 長井展光 新美妙子 本橋春紀

柳川素子 渡邊 悟

2. 2022年度は、「直接聞いちゃう最強戦略 YouTube との付き合い方」というテーマで、2023年2月にオンラインセミナーを開催しました。

(1) 今年度も、昨年度に引き続きコロナ禍でのセミナー開催となったため、従来のような対面形式ではなく、オンライン形式で実施しました。ビデオ会議システム (Zoom ウェビナー) の導入、感染対策を徹底した上での少人数によるスタジオ生配信の運営など、2回連続でオンラインセミナーを開催したことにより、その方法論やノウハウを発展させることができました。

(2) 受講料はオンラインセミナーの適正な価格帯を慎重に検討しましたが、諸般の事情から公開範囲を正会員・維持会員 (および維持会員である民放連の加盟社) に限定して維持会員 3000円、正会員 2000円としました。

(3) 注目度の高いネット・配信系のテーマをタイムリーに設定したこともあり、民放地方局などの関係者を中心に好評を得ました。定員 200名のところ 90名の申し込みがあり、オンライン形式で支出を抑制することができて、最終的な収支も黒字化を達成することができました。

3. セミナーの概要は以下の通りです。

放送批評懇談会セミナー2023

タイトル: 「直接聞いちゃう最強戦略 YouTube との付き合い方」

日 時: 2023年2月24日 (金) 14:00~16:00

形 式: オンライン (Zoom ウェビナー)

定 員: 200名

NPO放送批評懇談会



第19回通常総会 2023

受講料：維持会員 3000 円、正会員 2000 円

講演者：永原錬太郎 (Head of News Partnerships, YouTube, Google Japan)

立花剛 (テレビ東京報道局「テレ東BIZ」副編集長)

モデレーター：長井展光 (毎日放送 経営戦略局)



2022年度広報事業報告

1. 2022年度は、下記の委員で運営しました。
委員長 滝野俊一
委員 飯田みか 石橋さや夏 汲田亜紀子 小林英美
西川博泰 西森路代 柳川素子
事務局 中島好登 齋藤茜里
2. 公式ホームページの充実に努めました。特に「ドラマ座談会」などオリジナル記事の掲載に力を入れました。
3. ツイッター、インスタグラム、フェイスブックといったSNSやYouTubeを使った広報活動に力を入れ、ギャラクシー賞や「GALAC」、放懇セミナーなど会の事業のパブリシティに努めました。ツイッターが5,770人、インスタグラムが1,775人、フェイスブックが965人とフォロワーも順調に増えました。また、YouTube公式チャンネルのチャンネル登録者数も3,590人と増えています（いずれも3月10日現在）。
4. 第59回ギャラクシー賞贈賞式で撮影した受賞者のインタビュー動画を、後日、YouTube公式チャンネルに配信しました。
5. 放送批評懇談会YouTube公式チャンネルに「ギャラクシー賞受賞ドキュメンタリー作品リンク」ページを開設し、ギャラクシー賞を受賞したドキュメンタリー作品の視聴機会を提供しました。
6. 準会員制度「放送批評懇談会オンライン会員 Gメンバー」（以下、Gメンバー）の運営を行いました。10月11日にGメンバーサイト（会員サイト）をリニューアルオープンし、利便性とセキュリティを高めました。Gメンバーの会員数は、555名でした（3月10日現在）。
7. 「放送批評懇談会・ギャラクシー賞60年史」（プリント版&電

NPO放送批評懇談会



第19回通常総会 2023

子版) の企画、編集を行いました。

第三号議案

放送批評懇談会

2022 年度決算報告

収 支 計 算 書

2022年4月1日～2022年12月31日まで（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 会費等収入			
会費収入	2,200,000	1,561,250	638,750
維持会費収入	32,400,000	31,110,000	1,290,000
GMPA-会費収入	6,000,000	62,336	5,937,664
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	24,000,000	29,453,710	△ 5,453,710
企画開催事業収入	500,000	0	500,000
周年事業収入		6,000	△ 6,000
3. その他の収入			
出版編集事業収入	4,500,000	4,844,686	△ 344,686
広告料収入	3,000,000	2,500,000	500,000
4. 雑収入			
受取利息	0	14,474	△ 14,474
雑収入	0	3,500	△ 3,500
5. 退職金関連			
保険満期返戻金			
当期収入合計	72,600,000	69,555,956	3,044,044
II. 支出の部			
1. 事業費			
選奨費	6,000,000	7,487,864	△ 1,487,864
式典費	12,000,000	9,429,246	2,570,754
企画開催費	200,000	4,800	195,200
原稿料	4,100,000	3,862,285	237,715
編集費	3,200,000	3,274,115	△ 74,115
雑誌印刷費	14,000,000	14,492,610	△ 492,610
発送費	2,000,000	1,947,272	52,728
2. 管理費			
給料手当	17,900,000	17,812,148	87,852
人件費	380,000	250,420	129,580
法定福利費	2,400,000	2,062,500	337,500
福利厚生費	80,000	115,341	△ 35,341
旅費交通費	340,000	405,437	△ 65,437
通信費	420,000	491,752	△ 71,752
資料費	40,000	45,620	△ 5,620
会議費	60,000	63,252	△ 3,252
水道光熱費	200,000	219,447	△ 19,447
事務用品費	60,000	45,547	14,453
消耗品費	170,000	168,805	1,195
備品費	150,000	394,739	△ 244,739
諸印刷費	340,000	367,400	△ 27,400
広報費	3,300,000	3,546,335	△ 246,335
支払手数料	190,000	164,173	25,827
賃借料	3,100,000	3,034,268	65,732
保険料	300,000	2,660	297,340
交際費	70,000	55,514	14,486
雑費	730,000	781,056	△ 51,056
諸会費	120,000	115,233	4,767
租税公課	0	70,000	△ 70,000
消費税	0		0
退職給付引当金繰入	750,000	750,000	0
志賀基金繰入			0
当期支出合計	72,600,000	71,459,839	1,140,161
当期収支差額	0	△ 1,903,883	1,903,883

貸借対照表
2022年12月31日現在(単位:円)

科目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	66,975,221		
未収入金	2,962,500		
所有物	286,625		
流動資産合計		70,224,346	
2. 固定資産			
賃借権利金等	67,552		
差入保証金	4,099,500		
特定資産			
志賀基金	60,196,340		
退職給付引当金	9,404,926		
固定資産合計		73,768,318	
資産合計			143,992,664
II. 負債の部			
未払金	5,009,516		
前受金	4,742,500		
預り金	1,204,789		
仮受金	22,161,410		
退職給付引当金	9,404,926		
負債合計			42,523,141
III. 正味財産の部			
志賀基金	100,000,000		
その他の正味財産	1,469,523		
正味財産合計			101,469,523
(うち基本金)			0
(うち当期正味財産増加)			-1,903,883
負債及び正味財産合計			143,992,664

正味財産増減計算書

2022年4月1日～2022年12月31日まで(単位:円)

科目	金 額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
現金預金増加額	22,492,083		
特定資産増加額	13,390		
2. 負債減少額			
未払金減少額	1,781,059		
増加額合計		24,286,532	
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
未収入金減少額	215,000		
賃借権利金減少額	101,326		
1. 負債増加額			
前受金増加額	2,132,500		
預り金増加額	830,179		
仮受増加額	22,161,410		
退職給付引当金増加額	750,000		
減少額合計		26,190,415	
当期正味財産増加額			-1,903,883
前期繰越正味財産額			103,373,406
期末正味財産額			101,469,523

第四号議案

放送批評懇談会

2023 年度事業計画



2023年度総務事業計画

1. 会員管理、会議運営、事務局業務を行い、事業部門の活動を支援します。
2. 正会員の加入促進
正会員の加入促進に努め、より多彩な活動を支えます。
3. 維持会員の加入促進
維持会員の増員によって会の財政基盤を強めることを目指します。
4. ホームページ、ギャラクシー賞データベースの維持管理
広報委員会と連携し、公式ホームページを維持管理し、充実を図ります。
ギャラクシー賞データベースの管理運営に当たります。
5. Gメンバー、Gメンバーサイト（会員サイト）の管理
広報委員会と連携し、「放送批評懇談会オンライン会員 Gメンバー」の管理に当たり、運営を支援します。Gメンバーサイト（会員サイト）の維持管理に当たります。
6. ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、YouTube の運営管理広報委員会と連携し、会の公式ツイッター、フェイスブック、インスタグラムおよびYouTube を管理、運営し放送批評懇談会、「GALAC」、ギャラクシー賞の広報に努めます。
7. 「GALAC」広告
出版編集委員会と連携し、「GALAC」広告の営業に努力するほか、スペースの有効活用について研究します。
8. ギャラクシー賞
第60回ギャラクシー賞贈賞式を2023年5月31日に開催します。



第61回ギャラクシー賞の選考活動を支援、運営に協力します。

9. 志賀信夫賞
第14回志賀信夫賞の選考、表彰を行います。
フロンティア賞の選考、表彰を行います。
10. 第21回「日韓中テレビ制作者フォーラム・韓国大会」
2023年に開催が予定される「日韓中テレビ制作者フォーラム・韓国大会」に協力し、大会の成功に寄与します。
11. 放送批評懇談会60周年
川喜田尚専務理事、藤田真文常務理事を60周年事業担当として、2023年の放送批評懇談会60周年の事業を推進します。
 - 1) 放送批評懇談会60周年記念式典を、ギャラクシー賞贈賞式に合わせて行います。
 - 2) 放送批評懇談会60周年記念賞を選出し、表彰します。
 - 3) 広報委員会と協力し、「放送批評懇談会・ギャラクシー賞60年史」の作成に当たります。
 - 4) 「NPO法人としての放懇のあり方」を検討し、組織としての強靱化を図るため、財政の安定化、危機管理体制、規程の整備などを進めます。
12. 事務局の労働環境、管理・業務ならびに組織運営の規程を整備し、次世代につながる事務局体制を模索します。



2023年度出版編集事業計画

1. 2023年度は下記のメンバーで運営します。

委員長	鈴木健司				
副委員長	国枝智樹	渡邊 悟			
委員	岩根彰子	梅田恵子	鈴木 昭	高堀冬彦	
	戸部田誠	西川博泰	服部洋之	三谷実可	
編集スタッフ	中島好登	福島美子	山本夏生	齋藤茜里	

2. 毎月6日に「GALAC」を発行します。本年度の運営方針は以下のとおりです。

- 1) 動画配信ビジネスのさらなる拡大とともに、「放送」というカテゴリーが転機を迎えようとするなか、新型コロナ禍や気候変動、世界情勢の不安定化、そしてジェンダーフリーなどSDGsに挙げられているようなさまざまな社会通念の変化といった要素も加わり、メディアの役割やそのあり方が恒常的に問われています。「GALAC」はそうした状況を見据え、「放送にかかわる諸問題に対してさまざまなアプローチを行い、放送文化の向上に貢献する」という創刊以来続けてきた役割を地道に果たしながら、定期刊行メディアとしての雑誌づくりを行っていきます。さらに、数少なくなった「放送専門誌」「放送批評誌」としてその存在意義を示していくとともに、放送批評懇談会の「機関誌」として、ギャラクシー賞その他の活動を周知していく使命も果たしていきます。
- 2) 基本編集方針は、特集・連載・各選奨委員会による番組批評の3本柱で構成し、読者ターゲットである「放送にかかわるあらゆるプロフェッショナル」「放送界をめざす学生」、そして「意識の高い視聴者・聴取者」に、面白い、役に立つと感じてもらえるような記事を掲載するよう努めます。
- 3) NPO法人の発行する雑誌として、どの団体、組織にも付度しないジャーナリズム精神、自由闊達な批評精神を堅持し、



あらゆるテーマにチャレンジする編集姿勢を貫きます。また、専門誌として放送にかかわるさまざまな事象を、一つの歴史として「記録」していく役割も同時に果たしていきます。

- 4) 特集ページは毎月タイムリーなテーマを選定するとともに、テレビ、ラジオ、CMのみならず、ネットメディアや衛星・ケーブルメディア、ローカル局や制作会社、そして業界の動向など、さまざまな領域に目配せし、バランスよく編成していくことを目指します。
- 5) 放送批評懇談会正会員やGメンバーなどからの意見に耳を傾けながら、柔軟かつ時宜を得た雑誌づくりに努めます。
- 6) 選奨事業委員会や企画事業委員会との連携を推進し、連動企画の実現など、放送批評懇談会の各種活動の活性化に寄与していきます。
- 7) 広報委員会との連携をさらに推進し、さまざまなチャンネルを通じて「GALAC」に関する情報収集、読者からの反応を継続的かつ積極的に行います。そして「GALAC」の存在感をよりいっそう高めるとともに、Gメンバーの入会促進に寄与するよう努めます。
- 8) 「GALAC」広告の営業に努力するとともに、有効活用を進めます。



2023年度選奨表彰事業計画

1. 2023年度は下記の委員構成で運営します。

選奨事業委員長 出田幸彦

<テレビ部門委員会>

委員長 古川柳子

副委員長 桧山珠美

委員 石田研一 永麻理 太田省一 岡室美奈子

影山貴彦 加藤久仁 戸田桂太 並木浩一

藤田真文 松田健次 松山秀明

<ラジオ部門委員会>

委員長 桜井聖子

副委員長 仲宇佐ゆり 山田眞嗣

委員 石井育子 井上佳央里 川喜田尚 北郷裕美

下田まり子 真銅健嗣 永須智之 松崎泰弘

三原 治

<CM部門委員会>

委員長 家田利一

副委員長 風間恵美子

委員 伊藤健志 今宿裕昭 片桐 理 川野康之

木下一郎 生野 徹 中島和哉 野上信子

平岩モトイ 村田玲子 山下治城

<報道活動部門委員会>

委員長 茅原良平

副委員長 長井展光

委員 市川哲夫 市村 元 小泉世津子 齊藤潤一

塚本 茂 西島泰三 樋口喜昭 平岩 潤

選奨事業委員会担当事務局 福島美子 齋藤茜里

2. 第60回ギャラクシー賞(2022年度)の審査、ならびに贈賞式を行います。
3. 2023年度の運営方針は以下のとおりです。



ギャラクシー賞が創設されて60年になります。現在のような「テレビ」「ラジオ」「CM」「報道活動」の4部門制となったのは2002年度からです。応募数も着実に増加し、直近はコロナ禍があったものの2021年度は全体で712本、5年前の2016年度にくらべて2割近く増えています。一方、テレビ、ラジオを取り巻くメディア環境の変化はますます激しくなっています。これまで以上に優れたコンテンツが求められています。引き続き斬新な企画や意欲的な作品が数多く寄せられることを期待するとともに、豊かな放送文化を育て、民主主義を支える担い手としての制作現場を応援していきます。

今年度も選奨にあたっては、各部門委員会が真摯で活発な討議を重ね、より厳正で慎重な審査と的確で質の高い選評に心がけます。また選奨委員による選評や講評、話題などを月刊誌「GALAC」に掲載し、作品への評価をわかりやすく丁寧に発信していきます。さらに「入賞作品を聴いて制作者と語り合う会」や「入賞作品を見る・聴く会」などについては、制作者と視聴者をつなぐ場やギャラクシー賞をPRする場として位置づけます。今年度はコロナ対策の緩和状況を見極めながら、可能な範囲で開催を目指します。

1) テレビ部門委員会の運営

メディア環境の変化に拍車がかかり、テレビ番組を新しい形で視聴する傾向も広がりつつありますが、それは同時にテレビ局の発信方法が多様化する可能性も意味します。これまで以上にコンテンツの制作力、展開力が重要になっていくことには変わりはありません。テレビ委員会は2023年度も、報道・ドキュメンタリー、ドラマ、バラエティなどジャンルを問わず、地上波、衛星波、ケーブルテレビそれぞれの特性も鑑みつつ、作品制作に取り組む制作者の皆さんを後押しできるような選奨活動を目指します。

① 定例月評会の開催

毎月1回月評会を開催し、各委員それぞれの視点から評価した作品を持ち寄り、忌憚なき議論を通し「月間賞」を選定します。



月評会に向けてテレビ委員間の掲示板を通して情報共有を行い、見逃し視聴などの機能も活用しながら幅広く番組視聴を心がけるとともに、世代、ジェンダー、地域、ジャンルなど多角的な視点から議論することに務めています。また、個々の番組評価に留まらず、番組表現の在り方、時代との向き合い方など、テレビ放送全般の傾向などについての考察も「私評」に反映させていきます。

② ギャラクシー賞の選定

ギャラクシー賞テレビ部門へは昨年度も、地上波、衛星波、ケーブルテレビ、制作プロダクション等から意欲的な応募がありました。年2回、エントリーされる応募作品に「月間賞」を加えて上期、下期それぞれ「入賞」「奨励賞」を選定。そして年間の「大賞」「優秀賞」「選奨」「特別賞」「個人賞」を決定します。制作者の皆さんの努力によって日々生み出されている、優れた映像表現、粘り強い取材記録、地域からの発信、新しい視点等々を丁寧に評価し、多様性や公平性も重視しつつ、社会に対して発信する機会となるような選奨を心掛けます。また、放送の表現を豊かにするための新しい技術活用の試みなどにも目を配り、フロンティア賞に推薦します。

③ 月刊誌「GALAC」での講評活動

月間賞やギャラクシー賞受賞作品の評価は、「GALAC」誌の選評・私評などを通して発信します。選評執筆は各委員にとっても大変重い仕事ですが、「テレビカ」の源泉である熱意ある制作者の皆さんへのエールや気づきに繋がるよう、心を込めた論評に務めてまいります。コロナ禍以降、番組制作者とのコミュニケーションは取りづらくなっていましたが、制作者インタビューなどの機会を通し、出来る限り推進していきたいと考えています。

2) ラジオ部門委員会の運営

前年度の副委員長の二人体制を継続し、情報収集と委員会活動の拡充を図ります。音楽配信サービスやポッドキャスト、個人で



コンテンツを配信する音声プラットフォームなど、多様化する音声メディア市場のなかで、ラジオの現在値を検証しつつ、未来へとつながる多様な作品を発掘し、制作者を応援します。

① 定例合評会

毎月1回の定例合評会を開催します。全国のAM局、FM局、コミュニティFM局の全番組を対象に、聴取番組を選び、議論します。合評会の内容は「GALAC」誌で公開します。ここ数年、リモートワークなど新たな生活環境下で、ラジオリスナーの増加がみられ、若い世代にはニューメディアとして捉えられています。新しいリスナー獲得のカギになるのは、やはりコンテンツ力=番組の力です。その意味でも日常的に番組と向き合う定例合評会は重要と考えています。放送を中心として、SNS、YouTube、ポッドキャストなど、他メディアとの連動を積極的に活用している点も議論し、合評に反映します。

② ギャラクシー賞の選考

第59回ギャラクシー賞の応募本数は、上期・下期合計80本でした。そして、第60回上期の本数は、50本と多くの応募がありました。引き続き、次の作品の制作、応募意欲につながる選奨を心がけます。

今年度もこれまでと同様に、上期、下期の「生ワイド」「音楽&エンターテインメント」「ドラマ」「報道・ドキュメンタリー」への応募作品から、優れた作品を評価し、入賞作品を選定、そして年間の「大賞」「優秀賞」「選奨」「奨励賞」を決定します。DJパーソナリティ賞は、毎月の定例合評会でも候補者の情報収集に努め選考します。また、カテゴリー別でみられる応募要項の課題を議論します。

③ 「GALAC」での活動

優れた番組や出演者を発掘し、ラジオの魅力と話題を発信します。ギャラクシー賞への応募が増えているコミュニティFM局や、ネット配信番組を取り上げるなど、さらに充実させます。

「生ワイド番組紹介」では、全国の放送局を12のブロックに



分け、地域ならではの個性豊かな番組やDJパーソナリティの発掘へとつなげます。「ラジオデイズ」は各委員の視点から、ラジオへの提言、問題提起、ニュース、ラジオ音声コンテンツ市場の動き、気になる人物などを取り上げます。

④「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、制作者と語り合う会」新型コロナ感染予防の観点から開催を見送っていましたが、今後の状況を踏まえながら、リスナーと制作者を繋ぐ場として開催を検討します。

3) CM部門委員会の運営

CMの状況は少し複雑になってきています。制作手法の多様化、ウェブCMの拡大など、変化を見ることができます。私たちは、CMの社会的・文化的価値や効果を適正に評価しつつ、さまざまなチャレンジする作品を発見し、批評することに注力していきます。

CM委員会では以下の活動を通じ委員会運営を強化いたします。

① 月例定例会の開催

毎月1回、委員各々が3本ずつリストアップしたテレビCM、ラジオCM、ウェブCMを多角的な視点から検討し、活発に批評活動を行います。コロナ禍でのリモート開催からリアルな会合に戻しつつ、遠方の委員にはリモートの余地を残していきたいと考えています。

② ギャラクシー賞の選考

選考会はできる限りリアルな対面方式を取り、活発な意見交換のなかで選考を行います。クリエイティブ力のある作品、企画力のある作品、感銘をあたえる作品、時代をリードする作品を発掘・評価していきます。また、第60回からはウェブCMを応募対象に含めました。これにより、幅広い領域からの作品の発掘が可能になりました。



③ 月刊誌「GALAC」での講評活動

毎月の定例会でピックアップした作品を「GALAC」誌面に反映できるようにしていきます。推奨される約30作品中、その時々テーマを設け、CMトピックスとして約3作品、モニタールームに4作品、アラカルトに10作品を掲載し、一層の充実を図っていきます。トピックスでは、制作の映像表現、音声表現、企画演出、メディアやターゲット、情報としての価値やニュース性、新しいCMスタイルなど、さまざまなテーマや切り口から、推奨作品を批評します。

④ 広報活動・セミナー開催

過去5回「ギャラクシー賞入賞作品を見る・聴く会」を、大賞受賞関係者をゲストに迎えて行ってきましたが、新型コロナの影響で開催を見送っていました。受賞作品を解説と共に視聴することは参加者にとって大きな影響力があります。今年こそ、実施の方法を探っていきたく考えています。

⑤ ラジオCMの審査方法について

現状では「ノンセクション審査」を行っており、応募本数に対して、ラジオCMの受賞本数はどうしても少なくなります。多くの委員から、音声作品をテレビCMと同等に審査する難しさが指摘されています。今期からウェブCMも対象になり、賞の配分のバランスをとるために、審査方法について検討します。

⑥ 応募作品の問題について

特に、応募の数を増やしたいと考えています。そのためにできる活動は何かを考え、場合によっては、もう少し積極的な動きをしてみたいと思っています。

4) 報道活動部門委員会の運営

① 従来の賞やコンクールでは個々の「番組」の完成度や作品性を中心に評価を行いますが、ギャラクシー賞報道活動部門では、個々の「番組」の枠組みでは必ずしも捉えきれない一連の「報道活動」全体を評価するところに最大の特徴があります。



番組内の特集やシリーズ企画、長期間に及ぶ調査報道、局を挙げてのキャンペーン、イベント、ネットなど他メディアと連動した新しい展開・試みなど、多種多様な報道活動を評価の対象にし、放送ジャーナリズムの活性化に寄与することを目的としています。

② 報道活動部門は応募制を採っています。年2回（上期・下期）、エントリーを受け付け、選考を行います。なお、応募にあたっては自局の報道活動に限らず、各局・各社が共同で実施、放送したのもエントリーの対象とします。最終的に大賞1本、優秀賞2本、選奨3本を選びます。上記の選考の過程・結果は贈賞式及び「GALAC」誌上で発表します。

③ そして、日頃から各委員がテレビ・ラジオ各局、およびケーブルテレビ局の報道活動やキャンペーンなどの長期活動に注目し、リサーチした情報を交換する会を年2回程度開きます。その他に、委員の輪番による「GALAC」のコラム（報道活動部門トピックス）の掲載などを通して優れた報道活動を積極的に発掘、紹介し、多方面からの応募を促すことに努めます。

④ 本委員会は地方を拠点に選奨事業に関わる委員も多いので、地方の活動にもしっかりと目を向け、情報収集することに努めます。またネットやデジタルを活用した新たな取り組みなど、ギャラクシー賞報道活動部門だからこそ評価できる独自性を持った報道活動にも注目していきます。



2023年度企画開催事業計画

1. 2023年度は下記の委員で運営します。

委員長 水島宏明

副委員長 奥 律哉

委員 氏家夏彦 長井展光 新美妙子 本橋春紀

柳川素子 渡邊 悟

※若干名を検討中

2. 放送の今日的課題をめぐるシンポジウム、セミナー・研究会などを企画・立案・実施します。

3. 本年度の運営方針は以下の通りです。

- (1) 幅広く、タイムリーにテーマを設定します。

「通信と放送の融合」「ローカル局の経営」「ロシアによるウクライナ侵攻によって生じた軍事的緊張の高まりとエネルギーや食糧品の高騰」「ポストコロナ時代と放送」「放送のダイバーシティ推進」など、放送を取り巻く課題や環境は大きく変化しています。特にこのところ進めている動画配信プラットフォームとテレビ局や制作会社などが共存する時代はますます現実になりつつあります。放送ジャーナリズム、放送文化、経営問題などを幅広く視野にいれ、放送メディアが直面するさまざまな課題についてタイムリーに議論し、発信するように努めます。

- (2) 開催方法等については、コロナ禍にあってオンライン形式のシンポジウムやセミナーを模索してきました。2023年度に入るとコロナ禍がいったん収束し、新型コロナウイルス感染症は2類相当から5類へ移行します。マスクの着用も個人の判断に委ねられ、ポストコロナ時代が到来します。対面でのイベント開催を基本としてワンポイントのテーマで中規模のセミナーを年間1~2回開催する方向を考えます。コロナ禍で慣れたオンライン形式のイベント開催も視野に入れながら、ポストコロナ時代に合ったハイブリッド形式のイベント開催を追求していきます。



- (3) 他の委員会との連携を一層強化します。
選奨事業委員会（テレビ、ラジオ、CM、報道活動の各部門）
や出版編集委員会（「GALAC」）と積極的に連携し、相乗効果で発信力の強化を目指します。



2023年度広報委員会事業計画

1. 2023年度は下記の委員で運営します。

委員長 滝野俊一

委員 飯田みか 石橋さや夏 汲田亜紀子 小林英美
西川博泰 西森路代 柳川素子

事務局 中島好登 齋藤茜里

2. 公式ホームページやSNS（ツイッター、インスタグラム、フェイスブック）、YouTube 公式チャンネルを使った広報活動に、さらに力を入れます。

3. 「ドラマ座談会」や「GALAC」記事、受賞者インタビュー動画といったオリジナルコンテンツの強化など、公式ホームページのコンテンツのさらなる充実を図ります。

4. 第60回ギャラクシー賞贈賞式でも、取材対応を担当します。

5. YouTube でのライブ配信を、第60回ギャラクシー賞贈賞式でも検討します。贈賞式当日の受賞者動画インタビューもさらなる充実を目指します。

6. オリジナル動画を増やすなど、放送批評懇談会 YouTube 公式チャンネルの充実を図ります。

7. 「放送批評懇談会&ギャラクシー賞60周年イヤー」として、4月から特設ウェブサイト进行を設けるなど積極的な広報活動を展開します。

8. 準会員制度「放送批評懇談会オンライン会員 Gメンバー」（以下、Gメンバー）の運営を行います。

9. Gメンバーと正会員によるマイベストTV賞の月間ノミネート番組の投票を実施します。そして、「第17回マイベストTV賞



グランプリ」を決定し、第60回ギャラクシー賞贈賞式で表彰します。

10. 「放送批評懇談会・ギャラクシー賞60年史」(プリント版&電子版)の編集を行い、10月の完成を目指します。

第五号議案

放送批評懇談会

2023 年度収支予算

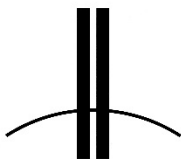
2023年度予算
2023年1月1日～12月31日まで（単位：円）

科目	2021決算額	2022予算額	2023予算額	備考
I. 収入の部				
1. 会費等収入				
会費収入	2,797,500	3,000,000	3,000,000	正会員会費
維持会費収入	41,485,000	42,500,000	42,500,000	維持会員会費
Gメンバ-会費収入	1,071,715	6,000,000	200,000	Gメンバ-会費
2. 事業収入				
選奨表彰事業収入	28,452,706	29,000,000	33,000,000	参加料、レプリカ販売、会費
企画開催事業収入	559,000	500,000	600,000	セミナー参加料
周年事業収入	15,000			
3. その他の収入				
出版編集事業収入	17,576,464	6,000,000	6,000,000	GALAC販売
広告料収入	3,795,000	4,000,000	2,500,000	GALAC広告
4. 雑収入				
受取利息	4,633			
5. 退職金関連				
保険満期返戻金				
当期収入合計	95,757,018	91,000,000	87,800,000	前々年比91.7%
II. 支出の部				
1. 事業費				
選奨費	8,305,015	7,700,000	8,000,000	委員会、レプリカ、システム維持管理
式典費	11,737,230	12,000,000	13,000,000	ギャラクシー賞贈賞式開催費
企画開催費	161,290	200,000	400,000	委員会運営、セミナー経費
原稿料	5,348,426	5,500,000	5,500,000	GALAC原稿料
編集費	4,364,454	4,300,000	4,300,000	委員会運営、GALAC編集費
雑誌印刷費	21,314,700	19,000,000	19,800,000	GALAC印刷費
発送費	3,211,152	2,800,000	2,600,000	GALAC発送費
2. 管理費				
給料手当	22,186,236	22,000,000	22,000,000	職員給与
人件費	423,470	500,000	1,000,000	臨時・契約職員
法定福利費	3,516,719	3,100,000	3,500,000	社会保険など
福利厚生費	97,868	100,000	100,000	残業飲食、職員福利厚生
旅費交通費	450,895	450,000	500,000	通勤費・交通費、役員交通費
通信費	572,604	570,000	570,000	郵便、宅配便、電話、ネット
資料費	58,090	50,000	50,000	新聞、雑誌、書籍
会議費	63,771	70,000	80,000	総会、理事会などの会議費用
水道光熱費	267,481	270,000	300,000	水道代、電気代
事務用品費	100,973	80,000	70,000	事務用品、PCソフト
消耗品費	207,421	220,000	220,000	コピー機使用料、日用品
備品費	281,668	200,000	700,000	映像音響機器、PC関連機器
諸印刷費	514,250	450,000	450,000	封筒、名刺など
広報費	4,076,228	4,400,000	750,000	HP維持、Gメンバ-管理、日韓中
支払手数料	255,076	250,000	220,000	振込手数料、事務所更新手数料
賃借料	4,109,243	4,100,000	4,100,000	事務所賃借、コピー機レンタル
保険料	383,840	400,000	400,000	保険（退職金補填）、火災保険
交際費	93,954	100,000	70,000	冠婚葬祭
雑費	972,235	970,000	1,000,000	税理士、社労士、NHK、WOWOW、JCOM
諸会費	151,644	150,000	150,000	友好団体会費
租税公課	70,000	70,000	70,000	法人住民税、収入印紙
消費税	284,100	0	0	2019年度を対象に課税
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	毎年100万円の積み立て
志賀基金繰入				
当期支出合計	94,580,033	91,000,000	90,900,000	前々年比96.1%
当期収支差額	1,176,985	0	△3,100,000	

※2023年度の収支差額3,100,000円については、当会資産の一部をもって補填します。

2023年度予算案 特別会計
2023年1月1日～12月31日まで（単位：円）

科目	2023予算	摘要
I. 収入の部 志賀基金取崩益	6,000,000	
当期収入合計	6,000,000	
II. 支出の部 ギャラクシー賞60年史 贈賞式（拡張分）	5,000,000 1,000,000	
当期支出合計	6,000,000	



NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

kondankai@houkon.jp <https://www.houkon.jp/>